

## たからのちず

わたしのおとうさんは、とてもいそがしい。わたしがおきるまえには、しごとに出かけて、わたしがねてからかえってくる。休みの日もしごとに行くことがふえて、話すじかんがへってしまった。本とうは、言いたいことがあつたり、見せたいものがあるけれど、家ぞくのためにがんばってくれているから、おうえんしたい。

さいきん、おとうさんはしごとからかえってくると、ごはんだけたべて、そこでよこになってあさまでねてしまう。

わたしが、あえるときに

「ふとんじやないところでねてるとかぜひくよ。」

と言つてみても、つかれていて、体がうごかないみたい。このままじゃ、おとうさんが大へんだ。

おとうさんがかえってくるとき、わたしはねてしまっているけれど、どうにかして、つかれてかえってきたおとうさんを元気に、たのしくする方がないかなって考えてみた。

そしておもいついたのは、「たからのちず」をつくること。カラフルないろペンをつかったり、スタンプをおしたりして、とてもかわいくつくる。わたしがねるまえに、げんかに「たからのちず」をおいておく。

「げんかんを入れて、六歩歩いたら左にまがります。三歩歩いてまた左にまがります。つきあたりにパソコンがありますので、その下を見てください。たからがあります。」

おとうさんは、パソコンの下にある手紙を見つける。

「おとうさん、おしごとをがんばってくれてありがとう。学校で上手におよげるようになったから、夏休み中にはプールにつれて行ってね。」

たからものとはときどき手紙だったり、ときどき学校でつくった工さくだったり、いろいろある。

おとうさんは、このたからさがしを

「おもしろいことかんがえたな。たのしいよ。」

と言つてよろこんでくれる。うれしい。おとうさんがよろこんでくれるから、わたしもちずをかくのがたのしくなる。

いいたいことをつたえるとき、おもしろい方ほうでつたえたら、なんだか気もちがいい。わたしは、おとうさんのつかれがふつとぶような「たからのちず」をたくさんつくっていきたい。そして、たからの手紙で「いつもありがとう。」の気もちをしつかりつたえていきたい。

向 むこう  
玲奈 れいな